

土曜日の教育活動

国立教育政策研究所は12月19日に、「土曜日の教育活動とボランティア」を主題とした公開シンポジウムを東京・上野で開いた。NPO（非営利団体）代表の平岩国泰さんは、ボランティアを確保する際のコツについて「ボランティア自身が成長できることやスキルアップできること、また、仲間づくりができることが大切」などと訴えた。

平岩さんは土曜日や放課後に、さまざまな立場のボランティアから協力を得て、子どもたちの学びの場や体験の場を提供している「放課後NPOアフタースクール」（東京・港区）の代表理事。平成16年の長女誕生をきっかけに、活動を始めた。当初は別の仕事を持っていたが今はNPOの活動に専念している。

子どもたちがやりたいことをやれるように手伝うという考え方で活動を拡大してきた。あるときは、家を建てたいという希望を受

ボランティア確保のコツを伝授

国立教育政策研究所がシン

け、棟梁に何度も頭を下げて講師役を依頼した。素人では難しいと渋る棟梁に熱意が伝わり、1年間をかけて家を建てるなどしてきた。企業とも連携して、職業体験や科学の実験などの場を設けている。

講師の探し方については、「人づてにかなうものはない」と述べ、さまざまな会合に顔を出しておくことが大切だとした。

企業と連携する際には、
①要望を具体的にまとめる
②第三者に取り次いでもらってから声を掛ける
③ライバル企業には声を掛けていないことを伝える
の3点が有効だとした。

このシンポジウムは、コ―ディネーターを昭和女子大学コミュニケーションサービスラーニングセンター長の興相寛さんが務めた。平岩さんの他、NPOカタリバで活動している山田雄介さんが東日本大震災の被災地での学習支援について、北海道教委職員の五十嵐秀介さんが企業と連携した家庭教育支援事業についてそれぞれ紹介した。